

# 研究通信

No. 28

1958年7月刊

村落研究会事務局

豊橋市阿畑町

愛知 大学  
社会学研究室内

## 鳴子温泉に決定

一九五八年年度大会と研究課題について

村落研究会が発足してすでに年を経過し、研究大会も第六回を迎えることになりました。会員も現在では二百名にまで及びんとしております。申すまでもなく村研が法律、経済、社会、歴史、地理等の諸半の領域にわたって村落についての多角的研究を試みていることは、学会においてもそのユニークな性格が認められ、研究成果も極めて大きいものがあると考えられます。一般に村研のみに限らずすべての学会研究会は、それが発展し成長することを望んでいるに違ひありませんが、反面その必然の結果として集団自体の性格が形式化されたものによる傾向にあるようです。しかしそれが事務的な作業能率の向上を目指すならばともかく、学問に関するかぎりは形式化された雰囲気ではそこに存在する何らかの制約によって、問題を自由にしかも深層的に掘り下げることは不可能に思われます。殊に村研におけるように会員の専攻領域が広範囲にわたり、それぞれの場合にも若干の差異が存在しているときはなお更といえましよう。この二三年來、会員の間でこのことが取沙汰され、講すべき対策がいろいろと考えられて来たこともけだし当然のなり行きと考えられます。

既刊研究通信ですでに御承知のように、形式化の除去と会の発展

のために究は既に昨年の大会を宿泊を兼ねたものにする計画があったのですが、委員会では時期尚早として、先づ大会を二日間とし、他学会から独立したものととして一歩前進の態勢を整えたわけです。本年は会員間に更に高まって来た宿泊大会の必要の声を耳にしたがら、事務局の行ったアンケート(別表参照)を基礎にして、拡大会員会において慎重に検討された結果、遂に多年の懸案であった宿泊大会を鳴子温泉において行うことに決定した次第です。一切の制約から離れて温泉にくつろぎながら時間の経過も忘れて討論を行えば、必ずや爽り多い大会を期待出来ますし、討論の延長から話の花を咲かせばお互の親交を深めることも出来ます。こうしたところに村研本来の姿を再び見出すことも出来るかと思えます。会員各位の多数の御参集と活発な報告、討議の行われますことを心から念願致します。

### 第六回年次大会

○期 日：十月七日、八日

○場 所：宮城県鳴子温泉 農民の家

○共同課題：「村落共同体」

○報告者：公衆

共同課題、自由課題に会員各位の積極的御協力を期待します。詳細は拡大会員会記事を参照下さい。  
締切八月十五日厳守

項目	会地区別					アンケート集計表(二〇〇名)
	北海道東北	関東東	中部関西	中国四国九州	計	
出席	16	31	17	7	71	宿泊
無委託賛成不賛成無言	4	13	3	4	24	
開催地	15	32	19	10	76	その他
無答	3	4	2	1	7	
計	20	46	22	12	100	

# ある感想

(東京) 島崎 健

村落社会研究会が出版して、村研通信の第一号がだされる際に、頼まれて感想をのせたことがある。そこで、私は、社会学以外に、農業経済学、法社会学、その他の社会学の分野が集ってつくられるこの学会に、私なりの期待をよせた。それから数年たった今日また感想をのせるようになったとき、私はその期待が私としては満たされたことをつつあることをまず述べておきたいと思う。それは、村落の社会学の研究の交流、いやそれ以上に、村落の社会学的研究が次第に形をととのえ、そのような方向にある、ということである。

第五回大会を省みるとき、勿論、いろいろ物足りない点は残ったであらう。しかし、社会学出身の私としては、社会学専攻のもの、村落研究が、経済学その他の分野との接触によって、新しい理論的基礎づけに向って動きつつあることを特に感じた。勿論そこには、発表にも質問にも、例えば「村落を資本主義体制のなかで把握する」という発言にみられるように、他の社会学では常識であることが、まだ十分なされてないやや妙な表現をとって、新しい発見のように述べられることもあり、「国家権力」、「独占資本」という従来の社会学の村落研究では見落されていた問題が正當に位置づけられなきままに、説明原理に使用されることもあった。しかし、それでもそのような問題がしばしば無視されて

きた多くの従来の研究を思うとき、他の分野からすれば驚くべきことかもしれないが、大きな発展といつてよいであらう。ここまでくれば、もはや、村落の社会学的研究とか、経済学の研究という区別を強いて求めることは大して意味がなく、村落の社会学的研究、そしてその重点のおきどころの違いと考えた。村落社会研究会がそのような研究の場となつてきていることに私は満たされたことのあるものを感ずるのである。

以上を前提として、経済学では常識的なことを、私も一言ついでに述べておきたいと思う。村落の構造分析が土地所有の性格から、近代の、特に戦後の村落においては、資本との関係においての土地所有の性格から始められねばならないことには、必ず異論ないであらう。資本と土地所有との関係をめぐって、戦後の農業「農村の構造」に対して、一方で「国家独占資本主義的把握観」と他方「共同体的把握観」とが行われたことも周知の通りである。しかし、いずれかの観点のみが、現実の農村をよく把握しようとするということはないであらう。農村の階層「階級構造」そのものの分析のなかから、国家独占資本主義的把握がより現実的であり、あるいは共同体的把握がより強調されねばならない、ということはある。国家独占資本「階層」階級構造「共同体的」の共存、この「シニヤ」はどのような村落をみるうえにも基本的な視点である。国家独占資本主義的把握がより現実的である階級分解のすすんだ村落と、共同体的把握観の強調される階層分化にとどまっている村

落とのあいだには、無限にニエフンスを異にした村落がある、というよりも、現実の村落が、両性格をあわせもち、国家独占資本によって共同体的性格を停滯的に維持させられるというところ、そこに日本の資本主義と農村問題の性格があり、資本主義の現段階的意義がある、と考えられる。しかし、いずれかへの傾斜は実際にみられるし、そこに発展段階に印した類型を設定することも可能なような気がする、その場合、それを決定するものは、その村落における生産力段階、特に商業的農業の展開、いかにであらう。戦前から現在まで含めて、地主的土地所有と商業的農業の展開との対抗関係こそ、いずれかの村落構造をうみだしてくるものだと思う。

こんなような漠然としたことを、そして恐らく他の人には当り前にすぎないことを、昨年の村研の大会を省みながら、現在やっている「相模川河水統制事業と畑地灌漑」の調査整理を前にして考えている。最近の傾向として、社会学での村落の研究が、農政の浸透とか農村の都市化とかいう新しい問題に関心がむけられているのを感じる、私なりに考えを基本的な考え方の図式と關聯して、農政とか都市化とかいう問題がそこでいかに位置づけられているのかが一寸気がかりになる。多くの勉強しなければならぬことを目の前にして、今後も村研がその勉強を進めてゆく場にある、と私は思っている。

# 拡大委員会記事

六月三十日夕、東京本郷において今秋大会運営に關する相談のための拡大委員会が開かれた。そのため、事務局よりアンケート回答集計表をお知らせいただけただけで、それをもとに討議が開始された。六月二十五日現在までの回答九三氏中、宿泊を伴う大会賛成六八、不賛成七、及び、場所については、鳴子四、東京一七、その他四、という数字に基いて、次の如く確定した。

## 開催地

鳴子 (但し現地調査を行うという案は取止める。宿舍等に關する詳細は東北大学所属の會員諸氏に一任)

## 開催期

十月七日及び八日両日 (但し、六日夜までに現地に着き、七日朝より開会、八日夜まで継続、九日朝解散、そのため三泊二日のこと)

この開催月日については、社会学会大会の期日(同大会は十月十一日、十二日の両日、その前日である十日に理事会ありと判明)の前後を希望される方が多かつたことに基いて前記の如く決定された。

右の大会への共同課題「村落共同体」に關し、研究報告者を八月十五日以前で公募する。これにまにあうように、次回アンケートないしは研究通信において一層周知徹底をはかる。大会第二日目の午後には総括討論を行う。

その司会者団は、有賀、木下、喜多野、小池(基之)、中村(吉治)、福武によって構成する。なお、司会者、発表者として決定した方々には出張の便宜のため、事務局より所属機関長にあてて「司会者(発表者)として派遣依頼」の公文書を出す。

参考まで、既に発表の申込みをいただいた方々は次の如くである。

## 有賀鉄治(北海道)

北海道における一部落の形成過程から見た一考察(仮題)

内容は、村落共同体を崩壊させる社会的要因を直接間接に受けながら、その過程の中で、しかも一部落が形成されて行く。既にあった共同組織とか規制が崩れるのではなく、資本主義体制の中に組入れられて一部落が形成されてゆく過程を、北海道標茶町クマロ部落調査にもとづき考察する。(同氏端書より転載)

## 原 宏(八幡市)

対馬農村の共同体

佐藤井口と与良大山を事例として以上両氏のほかにも前記の如く同様會員諸氏の報告申込みを期待する。申込みの一切は八月十五日厳守とする。その際、簡單でもよいから内容を略記せう。但し、大会予告号となる村研通信の発行にまにあうよう発表者が充分なレジュメを事務局まで確切に提出して下さる様お願いする。その一切については事務局より決定公示していただく。

次回刊行の村研通信に、東北大学のどなたかより(東北大学農学研究所及び東北大学教育学部社会学研究室竹内利美氏の御相談により)宿泊の条件、所要経費等の細目を御寄稿いただけるように連絡する。

当日の出席者は、有賀、小池(基之)、島崎、森岡、米村、中野(卓)の六名であった

以上

## 大会開催地に關する會員の意見

大会開催地に關するアンケートについて、左の方々から御意見や御連絡を頂きました。出来る限り原文のまま掲載しましたから各位の近況を御推測下さい。(順不同、氏名の下は大会出席予定の有無) | 事務局 |

## (高知)二宮 哲 雄 有

独立した村研大会を持つこと、また宿泊を兼ねた大会をたとえは鳴子温泉などで開くことなど原則として賛成です。ところが突然出席となると、私達健康の地の者には、とくに旅費等の関係で困難になります。正直なところ、日本社会学会に行くか村研に行くかという二者択一的な結果になり、出席の都合がへります。したがって、会場、期日ともに社会学会に近いところを希望します。

## (東京)桜 非 徳 太郎 有

東京以外の地で大会を開くとしたら、会場をとりこぼしなく廻るよう取選ばないと不公平になりますので、やはりもう暫くは東京がよいのではないのでしょうか。

## (宮崎)無 名 氏 有

最近すっかり御無沙汰いたしましたので、今年には是非と存じております。鳴子は結構です。同じような条件をもった開催地がありましたら一応候補地としてあげてみたらと思ひます。

(札幌)塚 本 哲 人 有  
宿泊を兼ねた大会を是非実現して下さい。

(松江)細 野 誠 之 無

中国地方でも一度開催されてはどうかと存じます。

(東京)無 名 氏 有  
なるべく東京の方がよす。

(大阪)無 名 氏 有

開催期日はなるべく週日で、各県学会行事と重ならぬ時期にしたいです。

(京都)池 田 鏡 祐 未定

鳴子温泉はどこにあるか知りませんが、村研の名にふさわしいと思ひます。

(東京)米 山 桂 三

東京以外であれば欠席

(東京)西 川 善 介 無  
東京なら本年度大会出席予定

(青森)佐々木 泰 雄 有  
鳴子又は東京より北の方を望みます。

(大阪)中 島 龍 太郎 有

一任。辛勞の程多謝

(東京)住 谷 一 彦 有  
宿泊をかねた大会には賛成だが、本年度に

それをすぐ行うことは時期尚早の感あり、上つてもう一度東京開催を希望。

(愛知)後 藤 和 夫 有

若干人数が減少してもじっくり話し合ひで

きた方がよいではないか。社会学会と連絡した形の方が旅費が節約できるので賛成。

(長野)橋 山 貴 太郎 有

従来の大会の観念を離れて共同宿泊をしてゆくり話し合うことはよいことだと思ひます。時間を超越して思ふ存分話し合うには泊り込んでやらぬと駄目だし、そうすること人間関係を深めることだと思ひます。

(大阪)吉 井 藤 重 郎 有

鳴子温泉はどこなところかわかりませんが、期日のみ要望します(十一日)。宿泊を兼ねた大会は大賛成です。

(山形)長 井 政 太郎 有

上山温泉に御出で頂けたら御世話申し上げます。

(仙台)菅 野 正 有

(1)社会学会と期日にグラブないこと。  
(2)小生達は距離の関係上鳴子温泉開催に賛成。

(3)期日は大学の前期試験(九月下旬-十月下旬)期日をさけてもらいたす。

(東京)松 原 治 郎 有

大会は是非泊り込みがよいと思ひます。村落共同体論の徹底的な追究を期待してあります。

(東京)浜 島 朗 未定

鳴子温泉の一案ですが、地理的に東に片寄っていること、二つのならいである農村視察も多数の旅行見学以上のものをもたらさないことなど、名古屋近辺を提案します。

(大阪)余 田 博 有

昨年度の大会で決定した若すし、一度そ

の通りにやってみては如何ですか。それでうまく行かなければ翌年は漢考を直してもいいのではないかと。但期日は東京以外の会員のことを考えて下さい。

(東京)小 川 徹 有

期日については意見を申述べる立場ではありませんが、秋は十月末日-十一月五日まで地理学会が開かれるので、できればそれと衝突ぬことが望ましい。

(東京)伊 藤 章 有

宿泊をかねた大会大変結構ですがなかなかいけそうにありません。小生現在村落の原稿を依頼されその締切りが十月です。十一月の初め頃大会があったらと希望するのみです。

(東京)新 保 満 無

自分では出席できませんが、多くの方々にゆくりと色々な問題を討議して頂くため、福武氏の提案に賛成します。年報に期待します。

(愛知)木 原 健 太郎 無

いつも御高配を頂きながら欠席致してすみません。大いに御教示を仰ぎたいと思ひます。今年から来年にかけては恵那の農村の調査も一つのプロジェクトにする予定しますから村落研究会にも出席させていたただかねばと思ひます。

(鳥取)生 田 清 無

鳴子温泉は私の現住所から遠いので八月の夏休みに開催されるならば出席できます。しかし八月は恐らく他の方が不賛成でしょうから来年以後はぜひ西日本でやってみようと思ひます。

のです。

(愛知) 高野 史 男 無

大会を地方で開催すること、討議の時間を十分にとるため宿泊を兼ねること、には賛成ですが何しろ旅費が十分でないので余り遠く出かけられないのが残念です。討議の結論を年報などにまとめ下さると有難いのですが。

(札幌) 矢 島 礼 無

(1)なるべく他の学会とかち合わせよう。  
(2)村落社会研究会はなるべく地方でやるべきと思う。

(札幌) 東 谷 清 次 有

別に予定もありませんが、現地調査をも行うのであれば、農閑期が望ましいのではないのでしょうか。

(福岡) 原 宏 有

大会におけるテープレコードは去年のようなことのないよう万全を期せられるようお願いいたします。

(大阪) 山 本 登 有

やはり鳴子までは遠く一寸考えています。社会学会とついで頂いた方がいずれにせよ幸いです。

(島根) 山 岡 常 市 有

中心テーマについての論点をいくつかあげて討議が充実されるようにして頂きたいと思えます。

(東京) 吉 沢 四 郎 有

宿泊地の準備は大変と存じますが、是非実現していただきたいと思えます。

(愛知) 林 稻 苗 有

何かと大変と存じますがどうぞよろしく

(仙台) 安 孫 子 麟 有

鳴子ではかえって経費高となり、庶い農民の家では収容能力が心配で、従来のような多数参加が期待できません。

(札幌) 飯 島 源 次 郎 無

なるべく多数が出席しうる時期と場所が望ましいと思えます。幹事一任。

(仙台) 東 海 林 伸 之 助

鳴子での開催賛成いたします。  
(鹿児島) 大 山 彦 一 有

(1)日本社会学会に引続き村研の大会がもたれるよう日取りが出来るのであれば鳴子案にてもよし。

(2)東京の場合でも社会学会に引続きを希望す。

(仙台) 無 名 氏 有

従来通りの計画で行われる場合には中央の方が出席者に都合よい。但し鳴子で行うことに特に何らかの共同調査など行われる場合は前回の提案に賛成します。

(札幌) 鈴 木 栄 太 郎 無

昨年末より入院中のところ最近退院しました。

(東京) 池 上 広 正 無

大会に出席出来ませんので意見を申し述べるとも如何かと思えますが宿泊を兼ねた大会は新しい試みとして結構と存じます。

(青森) 菊 地 省 三 有

職務以外のことなので自費で出席することになるわけですが、予算等もありますので、宿泊費等をお知らせしていただければ結構だと思えます。

(山口) 田 中 義 郎 無

折角研究会に入会させて戴き乍ら次第に貴会と縁遠くなること痛恨の極み。絶えず連絡を致くことを深謝します。

(北海道) 齊 藤 兵 市 有

発表テーマによって部会をつくり、部会における討議に十分時間をかけるようにしたい。質疑や意見を部会において集約的に行うようにしたい。

(東京) 森 村 勝 無

昨年は参加させて頂きましたが今年度は仕事の場合で参加できそうにありません。「工業化にともなう農家労働力の変化」に関心をもち、勉強はしています。

(東京) 島 崎 稔 有

鳴子温泉での宿泊を兼ねた大会に賛成であることには間違いないのですが、その場合で参加可能かどうかを考え直してみると危くありません。

(福岡) 秀 村 運 三 未 定

不埒な会員で今迄一度も大会に出たことがありませんので一度出席したいと思っておりますが、本年度の大会に出席出来るか否か今のところまだ目あてがつきません。出来る丈出席したく、殊に宿泊を兼ねた大会は良さそうに思えます。

(大阪) 喜 多 野 清 一 有

会務は鳴子でも東京でも小生個人はいづれでもよろしい。たゞ期日は日本社会学会の前夜がよいと思えます。

(東京) 松 村 安 一 有

秋に学会が重なるのでその時期によつては

参会できませんが一度会員の關係深い学会の日時を調べるようして検討して頂けると幸です。東京を離れると往復の日数と方向の事もつてとくにこの点にお願ひします。

(福岡)内藤 莞爾 有

わがままなようです。が社会学会には出席せねばならず、これと切離して大会を持つことには賛成なんです。が、二度出掛けることは九州としては無理です。だからついでに鴨子に行けるように日程を組んで貰えれば幸です。

(東京)遊見 音彦 有

会場および開催期はどうでも結構ですが日本社会学会の開催日との關係を御配慮賜りたいと存じます。

御連絡頂いた右以外の出席予定者は現在まで次の通りです。

宮本常一、河村望、田野崎昭夫、西田春彦、藤木三千人、井森陸平、服部治則、小池基之、北川隆吉、森岡清美、中野芳彦、島田隆、山本陽三、村武精一、南清彦、牧野由朗、安藤慶一郎、飯塚博久、中田実、小林茂、菅野俊作、向山雅重、田原音和、園田恭一、上田一雄、松浦孝作、有賀喜左エ門、中野卓、川越淳二、外舞名氏九名、(未定)大藪寿一、内山政照

### 告知板

お書きのことです。会員各位お健健で研究に調査に御精励のことと存じます。本号は本年度大会開催に関する事項を報告することに重点をおきました。しかし宿泊費その他は問合せ中ですのでしばらくお待ち下さい。

島崎氏の原稿はかなり前に頂いたのですが、事務局担当者相互間の連絡不十分のため、前号に掲載できませんでした。筆者ならびに会員各位にふかくお詫び致します。

さて先般来会員各位の研究活動に関するアンケートを頂いておりますが現在までかなりの方から御連絡を頂きました。未返送の方は何卒なるべく早くお送り下さい。

このアンケートについて、次回は(1)本年度大会の持ち方、(2)村研全体としてのあり方、(3)二項目についての会員の声をお知らせする予定です。(九月月上旬)

研究テーマと研究成果については会員のなかに要望もありますので別輯として発行したいと思つて居ります。

なお事務局についての御意見はあまり頂けませんでした。創意工夫が事務局に必要ですが何分能力不足ですので何卒よいチエを借して頂きたく重ねてお願い致します。

最後に失礼とは存じながら会費の納入請求をかなりくどく致しました。多くの方から御協力が得られました。が、なお一本年度大会開催に不安なし」という所には程遠い状態です。から、よろしく御協力の程をお願い致します。○その後の会費納入者(六月一日以降)

1126

- 吉沢四郎 (32) 池田義祐 (32、33) 西村甲一 (32) 内藤莞爾 (32) 大藪寿一 (31、32) 近沢敏一 (30、32) 櫻井徳太郎 (32、33) 小池善吉 (30、32) 大内力 (32、33) 中村正夫 (30、32) 齋生正男 (30、32) 関清秀 (30、33) 吉井藤重郎 (32)

#### ○住所変更、名簿訂正

- 西田春彦 大阪市阿倍野区相生通二丁目一丁目 大阪府阿倍野区相生通二丁目一丁目 山本 登 和歌山市加太町(町村合併による町名変更)
- 大藪寿一 大阪府泉北郡高石町南二八八の一、高石住宅二二三号(一六九号より移転)
- 大橋 蕨 名簿の「市」を「郡」と附記あるは誤り(名簿訂正)
- 島崎 稔 東京都新宿区下落合三一一三三三 一へ移転
- 向山雅重 長野県上伊那郡宮田村田中
- 田原音和 仙台市杉山通り二一
- 田野崎昭夫 中央大学へ転。東京都中野区広町四一
- 藤木三千人 連絡は仙台市片平町東北大学教育学部研究室へ
- 河村 望 東京都品川区西中延五の二二二
- 中村吉治 仙台市大橋通十二川内公務員住宅二号へ移転。
- 山室周平 横浜国立大学へ転。鎌倉市浄明寺一七九